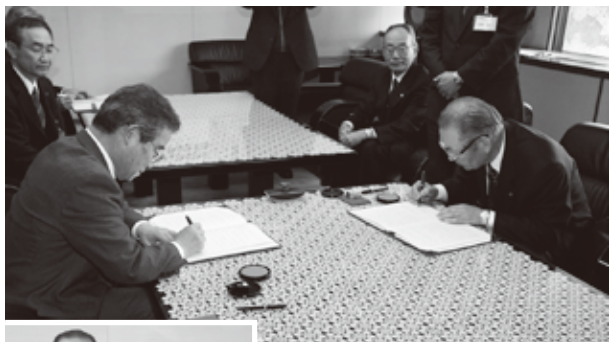


社会福祉法人西条市社会福祉協議会と西条市が
災害救援ボランティアセンター設置および運営に関する協定を締結



▲協定書に調印する社会福祉法人西条市社会福祉協議会の塩出皓治会長（右）と伊藤市長（左）。

◀調印後、握手を交わす塩出会長と伊藤市長。

社会福祉法人西条市社会福祉協議会と西条市との間で「災害救援ボランティアセンター設置および運営に関する協定」を締結することとなり、3月27日に市庁舎で調印式が開催されました。

この協定は、風水害や地震など大規模災害が発生し、ボランティア活動による迅速かつ円滑な応急救援活動が必要とする場合に、相互が連携・協力して災害救援ボランティアセンターを設置・運営しようとするものです。

災害救援ボランティアセンターは、大規模災害が発生した場合、市の要請に応じて設置され、被災地で活動するさまざまな機関・団体の活動を通じて得られる被災者ニーズの把握や、災害ボランティア関連情報の受発信、災害ボランティアの受け入れなど、総合的なコーディネートを実施する役割を担います。

四国鉄道文化館 (仮称)

建築こぼれ話 ⑤

元祖“夢の超特急”^{ゼロ}系新幹線電車



▲「0系」の運転席

昭和39（1964）年10月1日、東京〜新大阪間に東海道新幹線が開業しました。

そのときに登場した新幹線車両のタイプが、この「0系」です。

当時の国鉄（現在のJR）の技術力を結集して開発された0系新幹線電車は、時速200キロメートル以上の高速運転を実現し、“夢の超特急”と呼ばれました。

また、当時は画期的なシステムであった「ATC（自動列車制御装置）」と「CTC（列車集中制御装置）」や、すべての車両にモーターを取り付ける「全車電動車方式」を導入することによって、世界最高水準の安全性と安定性を実現しました。

世界の高速鉄道に大変革をもたらし、後に登場する「100系」



▲JR四国多度津工場で保存されている「0系」

や「300系」など、さまざまなタイプの新幹線車両のベースともなった「0系」は、昭和39年から昭和61（1986）年までの間に、3216両が作られました。

現在、そのうちの1両（先頭部分）が、JR四国多度津工場で保存されています。

3月号で紹介しました「DF50形」と一緒に「高速鉄道車両史の生き証人」ともいえる「0系」も四国鉄道文化館で展示される予定です。

「それにしても、新幹線がない四国の西条に、なぜ0系が？」と思われる方もいらっしゃるでしょう。

次号から、そのいきさつをお話します。